

住民登録

5月1日現在

前月比
人口 73,364 (-240)
男 35,007
女 38,357
世帯数 19,834 (-6)

大 報

おおだて

6月号 (No. 203)

編集と発行 — 大館市役所
(電話) 2-1212
発行年月日 — 昭和49年6月1日
発行日 — 毎月 1 日

広報紙は、行政協力員を通じて全世界に配布しています。届かなかつたり、配布が遅いときは、総務課秘書広報係へご連絡ください。

昭和43年3月1日第3種郵便物認可 (1部5円)

昭和46年度から
3カ年継続事業として
すすめていた市立桂城小
校の新築工事がこのほど完成し
5月17日、新装の体育館で喜びの
落成式を行いました。新装になった桂
城小学校の校舎は、鉄筋3階の堂々たる校舎
に体育館が付随、とくに、特別教室の充実を誇
る近代的な校舎に生れ変わり、子どもたちの喜
びもひときわ大きいです。

一方、この日、同校グラウンド西側に建築
していた桂城スポーツ館も落成、有
浦スポーツ館についてスポーツ
愛好者に、この完成が喜ば
れています。

新しい学校ができたゾ!

昭和46年度からはじまった工事も、途中、経済変動の影響を受けるなどして苦難の道を歩んだが、これを克服して、総工費3億3,870万円をかけ、計画どおりものに完成した。校舎建物面積は体育館を含め6,311.7㎡の広い面積を有している。

また、特別教室の中でも、ことばの教室、アナライザー室、音楽室、理科室、図書室等の教育設備がよくととのっていることは、子どもたちの学習効果の高まりに大きな役割をはたすことにはうに及ばないところであり、同校の教育目標である「たくましく、ゆたかに、実践する子ども」の達成に、新校舎はその期待に十分こたえてくれることと思う。

(写真) 完成した桂城小学校とその完成を喜ぶ子どもたち



桂城小 スポーツ館校 が落成



(写真) 6月1日からオープンする桂城スポーツ館

みんなて使おう桂城スポーツ館

昨年11月から、桂城小学校校庭の西側に、総工費1,237万円を投じて工事をすすめていた「桂城スポーツ館」が完成し、さる5月17日、同スポーツ館で竣工式を行ない、6月1日から市民に開放します。

このスポーツ館は、市民の運動不足の解消と健康保持のため建設したもので、市内では、昨年オープンして大変好評を得ている有浦スポーツ館につづく体育施設です。

今度完成した桂城スポーツ館は、建築のべ面積が823㎡(249坪)で、このうち競技場は628㎡(190坪)の広さをもち、バレーボールはもちろん、バスケットボールやテニス(支柱の設備

あり)もできます。

スポーツ館内の施設としては、男女別のシャワー室や音楽装置、湯沸湯があり運動器具として、バレー、テニス、バドミントンの支柱とボール等のほか、ベルトマッサージ器、自転車運動練習器など8種の器具が備えつけてあります。

<利用は無料デス>

スポーツ館の使用は、有浦、桂城とも無料です。使用申し込みは、直接スポーツ館に申し込むことになっていますのでスポーツ館利用希望者は、遠慮なく申し込んで下さい。

<桂城小の沿革>

桂城小学校は、明治7年4月、大館に創立された中城学校と西街学校がその前身といわれている。中城学校は土族の子弟、西街学校は外町の子弟を教育した大館では最初の官立の学校であったが、2校ともどこに校舎があったかは、今のところ明らかでない。

大館市史編さん室の佐々木陽二氏によると、中城学校は西中城(市役所の駐車場と裁判所の間)に、そして、西街学校は現在の閑居町(愛宕町)付近にあったのではないかという説をもっているが、いずれ大館市の教育史の中で、それが明らかになるものと思われる。

その中城学校と西街学校は、明治16年6月に合併して「大館小学校」となり翌年に新校舎を現市役所庁舎の所に新築したが、明治35年、大館尋常高等小学校は大館高等小学校と大館尋常小学校に分離、高等小学校は旧城跡に新築移転した。

以来、幾多の教育令の改正を経て、昭和29年4月1日に現在地に移転、今度のよろこびの新校舎新築となったが、このような沿革の中で歩みつけてきた桂城小学校も、今年でちょうど100周年を迎えることになり、新校舎の完成という二重の喜びの中で、桂城小学校は新たな歴史の1ページをくり広げようとしている。